

## 再評価結果（平成18年度事業継続箇所）

担当課：道路局 国道・防災課  
担当課長名：鈴木克宗

<b>事業名</b> 一般国道327号 <small>いわやど</small> 岩屋戸バイパス	<b>事業区分</b> 一般国道	<b>事業主体</b> 宮崎県												
<b>起終点</b> 自：宮崎県東臼杵郡椎葉村大字松尾 至：宮崎県東臼杵郡椎葉村大字松尾	<b>延長</b> 3.0km													
<b>事業概要</b> 一般国道327号は、宮崎県日向市を起点とし、熊本県山都町に至る延長約110kmの幹線道路である。岩屋戸バイパスは、幅員狭小、線形不良の隘路区間を解消し、安全で円滑な交通の確保を目的とした延長3.0kmの2車線道路である。														
H4年度事業化	H 年度都市計画決定 (H 年度変更)	H5年度用地着手 H5年度工事着手												
<b>全体事業費</b> : 110億円   <b>事業進捗率</b> : 65%   <b>供用済延長</b> : 0km														
<b>計画交通量</b> : 1,300台/日														
<b>費用対効果分析結果</b>	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="text-align: center;">B/C</td> <td style="text-align: center;">総費用</td> <td style="text-align: center;">総便益</td> <td style="text-align: center;">基準年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(事業全体) 1.5</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 50 / 116 億円</td> <td style="text-align: center;">(残事業)/(事業全体) 177 / 177 億円</td> <td style="text-align: center;">平成16年</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">(残事業) 3.5</td> <td style="text-align: center;">(事業費) : 49/114億円 (維持管理費) : 1/2億円</td> <td style="text-align: center;">(走行時間短縮便益) : 165/165億円 (走行費用減少便益) : 10/10億円 (交通事故減少便益) : 1/1億円</td> <td></td> </tr> </table>	B/C	総費用	総便益	基準年	(事業全体) 1.5	(残事業)/(事業全体) 50 / 116 億円	(残事業)/(事業全体) 177 / 177 億円	平成16年	(残事業) 3.5	(事業費) : 49/114億円 (維持管理費) : 1/2億円	(走行時間短縮便益) : 165/165億円 (走行費用減少便益) : 10/10億円 (交通事故減少便益) : 1/1億円		
B/C	総費用	総便益	基準年											
(事業全体) 1.5	(残事業)/(事業全体) 50 / 116 億円	(残事業)/(事業全体) 177 / 177 億円	平成16年											
(残事業) 3.5	(事業費) : 49/114億円 (維持管理費) : 1/2億円	(走行時間短縮便益) : 165/165億円 (走行費用減少便益) : 10/10億円 (交通事故減少便益) : 1/1億円												
<b>事業の効果等</b> ・災害への備え（災害による1～2箇所の道路寸断で孤立化する集落を解消する） ・国土・地域ネットワークの構築（現道における大型車のすれ違い困難箇所が解消される） 他11項目に該当														
<b>関係する地方公共団体等の意見</b> 本路線は、沿線地域の人員・物資の輸送、農林業等の産業活動を支える唯一の路線であるため、沿線住民および自治体で構成される入郷地域開発期成同盟会（平成15年9月2日）及び北部広域行政事務組合（平成16年11月5日）による整備促進の要望を受けている。														
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b> 平成16・17年の台風災害による道路寸断のため、孤立する集落が発生している。														
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b> 平成17年度に0.9kmの部分供用を予定しており、野地トンネルを除くすべての区間で工事着手している。														
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b> 工区内は急峻な山岳地形であり、橋梁5橋・トンネル2箇所と構造物が多いものの、工事計画は順調であり、平成20年代前半の全線供用を目標に工事を進めている。														
<b>施設の構造や工法の変更等</b> 道路縦断計画の見直しにより掘削土砂量を軽減するなど、コスト縮減を目指している。														
<b>対応方針</b> 事業継続														
<b>対応方針決定の理由</b> 以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。														
<b>事業概要図</b>														

※ 総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。